

# エコパウダー「炭の力」

## 施工マニュアル

本施工仕様書は基本的な施工方法を記載しております。施工者の経験やノウハウなどによって、また施工箇所の養生等によっても結果に大きな違いが出ますので注意して下さい。したがって、この施工仕様書を絶対視しないで、あくまで参考資料としてみていただき、施工技術の向上に役立てていただきたいと思います。

### index

1、施工準備	1 - 1 施工箇所の確認
	1 - 2 施工面積の算出
	1 - 3 使用量の算出
	1 - 4 使用工具類
2、施工	2 - 1 壁、天井面クロス仕上げ
	2 - 2 床、押入、納戸、クローゼット
	2 - 3 農業・畜産関連
3、材料取扱及び施工上の注意点	3 - 1 材料取扱い上の注意点
	3 - 2 施工上の注意点

防蟻・防腐には専用の『エコパウダーB X』をお使いください



平成15年2月20日 作成  
株式会社エコパウダー

## 1、施工準備

- 1 - 1 施工箇所の確認  
柱、床、壁、天井、押入、納戸、クローゼット、農業・畜産関連  
白蟻防除が目的で基礎や床下（土台、柱、筋違、大引、根太等）に施工するときは防蟻・防腐専用の『エコパウダー B X』をお使い下さい。
- 1 - 2 施工面積の算出  
設計図書、実測等
- 1 - 3 『エコパウダー「炭の力」』使用量の算出  
（1）使用材料 『エコパウダー「炭の力」』 1.8 kg / 缶  
（2）用途 床、壁等の下地、天井、押入、納戸、クローゼット  
（3）使用量 1回塗りの場合 0.150 kg / m<sup>2</sup>  
2回塗りの場合 0.300 kg / m<sup>2</sup>
- 1 - 4 使用工具類  
ハンドミキサーまたはマゼラー、養生テープ、養生ポリシート、皮スキ、カッターナイフ、ひしゃく、刷毛、ローラー、バケツ、継柄、ウエス、研磨材、脚立、送排風機、照明器具、保護具  
吹付工法の場合は、コンプレッサー、エアホース、リシンガン（口径3mm）、エアレス（エアレスの場合は吸い込み口のコシ網及びエアレスガン内のフィルターを外して下さい）

### 2 - 1 壁、天井面クロス仕上げ

- （1）素地調整  
ほこり、付着物を除去し、清掃して下さい。  
ボード類のジョイントパテ処理及びペーパー掛けの後に、塗布して下さい。  
パテのペーパー掛けした時の粉には、とくに注意して除去・清掃して下さい。
- （2）養生  
周囲を汚さないように、必要に応じて養生して下さい。  
木部の養生はとくに汚さないように注意して下さい。万一汚した場合は、早め  
に水で洗い落として下さい。乾いてから汚れに気がついたときは水でこすり落とす  
か、ペーパー掛けをして汚れを取って下さい。  
養生は見切りより塗装面へ若干被る程度が塗装漏れの防止になります。
- （3）攪拌  
マゼラーやハンドミキサー等を使用して、十分に攪拌して下さい。  
容器の底に粉末炭などが沈殿して残ることが無いように注意して下さい。
- （4）塗装  
塗装方法 刷毛、ローラー  
クロス下地として塗布する場合、リシンガン吹付やエアレスですと糊が付きに  
くくなる恐れがあるため、ローラーの使用をお勧めします。  
標準塗布量 0.25 kg / m<sup>2</sup> ~ 0.30 kg / m<sup>2</sup>

2回塗りの場合の塗布量です。

塗装回数・間隔 2度塗りの場合は2回に分けて塗装します。2度塗りの場合の1回目と2回目の間隔はローラー工法で約2～3時間(冬場は3～4時間)です。吹付工法の場合も約2～3時間です。さらに、必ず乾燥したかどうかを確認してから2度目の塗装を行って下さい。

塗装面にたれた塗膜は拭き取って下さい。凹凸でクロスが貼りにくくなります。

塗り重ねは段差がつきやすいので注意して塗装して下さい。

塗布面の炭粉が、均一・平滑になるように塗装して下さい。

ローラー工法の場合は、2～3回しごとと平滑になりやすいようです。

吹付工法で施工する場合、エア圧は6 kg/cm<sup>2</sup>が標準です。

塗装の乾燥後、クロス面のつなぎ面に炭粉の突起やザラツキがある場合、ペーパー掛けや皮スキ等で落として下さい。クロス工事がやりやすくなります。

ケレン後は、必ず粉の除去・清掃を行って下さい。

マスク等の保護具を着用して下さい。

作業室内が暗いときは、照明器具を準備して下さい。1回目の塗装後の塗りムラが分かり、きれいに仕上げることができます。

クロス貼り替えのときに、撤去したクロスの裏紙が残っている場合、完全に付着している箇所は問題ありませんが、浮いている箇所は撤去し、段差がひどい箇所はパテ処理をしてから塗布して下さい。コンクリート下地では霧吹きなどで水をかけながらスクレーパー等を用いると、比較的簡単にクロス紙がはがれます。仕上げのクロス材は通気性のあるもの(布、紙、木質系、ラフィットクロス等)を使用して下さい。

クロスの糊は、でんぷん系の糊を使用していただければいいのですが、なかでも矢沢化学工業の「ウォールボンド100」をお勧めします。

## 2 - 2 床、押入、納戸、クローゼット

### (1) 素地調整

ほこり、付着物を除去し、清掃して下さい。

クギなど、不備な箇所は調整して下さい。

### (2) 養生

周囲の養生は十分行って下さい。

押入など、塗装だけで仕上げる場合は、養生テープのラインに注意して下さい。

また、塗布しない箇所への養生は塗料が漏れて汚すことが無いようにしっかりとテーピングして下さい。

### (3) 攪拌

マゼラーやハンドミキサー等を使用して、十分に攪拌して下さい(前の注意書きを参照してください)

### (4) 塗装

塗装方法 刷毛、ローラー

標準塗布量 0.25 kg/m<sup>2</sup>～0.30 kg/m<sup>2</sup>

2回塗りの場合の塗布量です。1度塗りの場合は半分。

塗装回数・間隔 2度塗りの場合は2回に分けて塗装します。2度塗りの場合の1回目と2回目の間隔はローラー工法で約2～3時間(冬場は3～4時間)です。吹付工法の場合も約2～3時間です。

押入など、塗装で仕上げの場合、塗り重ねの段差に注意して、塗装面の炭粉が均一・平滑に仕上げてください。

一定方向に、面々で塗布した方が継ぎ目が目立たなくなります。

床の塗装は問題になることは少ないですが、極力均一・平滑に塗布してください。

塗布後、クロス仕上げの場合は、「施工2-1」に準じて下さい。

## 2 - 3 農業・畜産関連

### (1) 施工箇所

ビニールハウスの立ち上がり

貯蔵庫・倉庫の床、壁、天井

牛舎・豚舎・鶏舎の壁、天井

### (2) 素地調整・養生

前記「施工2-1」～「同2-5」の記載例に準ずる。

### (3) 攪拌

ハンドミキサー等を使用して、十分に攪拌して下さい。

### (4) 塗装

塗装方法 刷毛、ローラー、リシンガン(口径3mm)、エアレス

標準塗布量 0.35kg/m<sup>2</sup>

塗装回数・間隔 前記「施工2-1」～「同2-2」の記載例に準ずる

### 3、材料取扱い及び施工上の注意点

#### 3 - 1 材料取扱い上の注意点

- ( 1 ) 材料は、5 ～ 40 の直射日光の当たらない屋内に置き、直接地面に置かないようにして保管して下さい。零度以下になる屋外の物置等に置くと凍結して使用できなくなりますので、必ず室内に保管して下さい。
- ( 2 ) 混合した材料は、時間とともに粉末炭等が沈殿しますので、施工時に必ず攪拌して下さい。残った材料を再利用する場合も、同じくハンドミキサー等で十分攪拌して下さい。
- ( 3 ) 材料の保管場所及び材料取扱い時、施工時には火気厳禁です。

#### 3 - 2 施工上の注意点

- ( 1 ) 屋外施工の場合で、降雨・降雪が予想される時は、施工を避けて下さい。
- ( 2 ) 気温 5 以下の時は施工を避けて下さい。
- ( 3 ) コンクリート打設後の養生期間は、3 日以上を目安にして下さい。( pH 10 以下)
- ( 4 ) 素地が濡れている場合は、乾燥してから施工して下さい。木材の含水率は 20 % 以下として下さい。
- ( 5 ) 素地のほこり・付着物の除去、清掃は十分行って下さい。
- ( 6 ) 塗装もれや塗料飛散で周囲を汚しやすいので養生に注意して下さい。
- ( 7 ) 養生はがしの時は、素地のプラスターボード ( P ・ B ) の場合、養生テープと一緒に P ・ B の素層紙を剥がすことがありますので注意して下さい。剥がれた場合はタッチアップ補修をして下さい。
- ( 8 ) 塗り重ねによる段差や塗料のタレが無いように十分注意して、均一・平滑になるように塗布して下さい。
- ( 9 ) 照明器具を準備して下さい。
- ( 10 ) 室内で吹付工法を用いるときは、材料の霧が発生しますので、養生・換気・保護具着用を十分に行い、照明器具を使用して、塗り残しが無いように注意。
- ( 11 ) コンクリート面の亀裂、ジャンカ、巣穴等は施工前に補修して下さい。あらかじめ補修できなかった場合は、内部まで完全に塗布して下さい。
- ( 12 ) ボード等のジョイントパテ処理、及びペーパー掛けの後で、『エコパウダー「炭の力」』を塗布して下さい。
- ( 13 ) 木部等を汚した場合は、塗布面が乾いてからペーパー掛けをして下さい。
- ( 14 ) 吸い込みが無い下地の場合は、目荒らしやシーラーを塗布して下さい。
- ( 15 ) 壁・天井の仕上げ材は、通気性タイプのものを使用して下さい。
- ( 16 ) ローラー等の工具は、使ったら洗うという習慣を身につけて下さい。

